

第2回 One Minute Video コンテスト

2013年8月2日（金）

主催 公益財団法人 日本ユニセフ協会（ユニセフ日本委員会）

後援 文部科学省

プログラム

12:30 コンテスト受付

13:00 主催者挨拶

審査員の紹介、One Minute Video プロジェクトの紹介

13:10 入賞作品 No.1～10 上映

13:50 入賞作品 No.11～20 上映

14:30 入賞作品 No.21～30 上映

15:10 休憩（～15:40）

15:20 審査中特別トークイベント

15:40 授賞式

15:20～ 審査中特別トークイベント

第1回 One Minute Video コンテスト最優秀賞受賞作品、「REVIVAL」の受賞者 岩崎真実子さんにお越し頂き、どのようにして作品を制作したのかを実演して頂きます！

One Minute Video とは

One Minute Video は、1 分間の映像制作を通して、厳しい状況におかれている子どもたちなど、世界中の子どもたちが自分たちのメッセージを世界へ向けて発信し、自己表現力を養い、国籍を越えて興味は意見、夢や希望を分かち合う活動です。

One Minute Video プロジェクトは、The European Foundation, The One Minute-Foundation, ユニセフ（国際児童基金）の協力で 2002 年にスタートしました。初めは、紛争などで自分の意見を自由に表現できない子どもたちに、自分の意見や夢を伝えるチャンスを与える目的で始まりました。今では、

70 を越える国と地域から **1,000 人以上の子どもたち**が参加しています。ユニセフでは現在、アフリカやアジア、中東をはじめ多くの国々でワークショップを支援し、世界的にこのプロジェクトを広めるために活動しています。

入賞作品紹介

タイトル	作者名	所属
1 SMILE	国師 将大・多賀 千紘	東海大学
2 俺達の苦勞を知れ	埼玉県立新座総合技術高校 映像技術研究部 新総 EIKEN	
3 Little things	西尾 悠	KAIS International School
4 More Universal Design	鈴木 瑞穂	文教大学
5 見て見ぬふり	吉田 美幸	埼玉県立芸術総合高校
6 街	高橋 嵩人	宇都宮メディア・アーツ専門学校
7 With the war for whom?	近藤 沙伎	駿河台大学
8 過剰包装	中央工科デザイン専門学校 映像制作プロジェクト 2 班	
9 STOP！崩壊する世界！	名古屋大学教育学部附属高校 映像・演劇サークル	
10 次につなごう	青山学院大学 岩井ゼミ	
11 WHO' saving people?	静岡県立大学 飯野ゼミ Aグループ	
12 The soul of language	山室 美沙希・斎藤 昂弥	東海大学
13 May I help you?	大田垣 梨花	埼玉県立芸術総合高校 映像芸術科
14 武器工場	神田 浩平	文教大学
15 Piece	中央大学 FLPジャーナリズムプログラム 松野ゼミ	
16 幸福の花	西田 巧	駿河台大学
17 届けよう世界の子どもたちへ	静岡県立大学 飯野ゼミ チーム B	
18 WORD	丸山 沙織	東海大学
19 Happy share	東海大学付属翔洋高校 情報処理研究部 3 班	
20 BIRTHDAY RIGHT	茨城大学 arai gumi	
21 リサイクル王子の分別	長尾 隆樹	埼玉県立芸術総合高校 映像芸術科
22 cigaret	安田 千夏	文教大学
23 あなたの笑顔の素はなんですか	松原 拓	駿河台大学
24 No School violence	森 観紗・山口 皓平	東海大学
25 私たちは・・・	沓掛 麻里・千葉 芽依・山崎 信彦	獨協大学
26 Acid rain	福田 勝太	宇都宮メディア・アーツ専門学校
27 inside or outside	都立国際高等学校 映像 B 第 2 班	
28 NEGLECT	薬師寺 大翼	東海大学付属翔洋高校
29 line	松村 穂の花	埼玉県立芸術総合高校 映像芸術科
30 Stop!!!!..breath...?!!	山陽女子高等学校 三年M組	

入賞作品 No.1~10

1

「SMILE」

東海大学 国師 将大 / 多賀 千紘



家族、友達、彼女、ペット・・・
たくさんの人や動物と生活をしている中でたくさんの笑顔がうまれます。
その笑顔を自分の大切な相手に伝えようという思いで制作しました。あなたは、その「SMILE」を誰に伝えますか？

2

「俺達の苦勞を知れ」

埼玉県立新座総合技術高校 映像技術研究部 新総 EIKEN

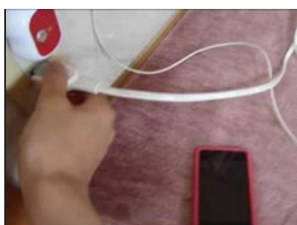


環境破壊につながるような行為とは何かを考え、一番簡単で一人一人が出来る節電から環境問題を考え制作しました。

3

「Little things」

KAIS International School 西尾 悠



地球の大半は水ですが、私達が飲めるのはその中のほんの少しです。電気は作りだせますが、そのために多くのエネルギー、資源が使われています。このビデオを見た人が次に水や電気を使う時に、少しでもその事を思い出してくれるといいと思います。

4

「More Universal Design」

文教大学 鈴木 瑞穂



普段私たちが何気なく生活している世界でも、立場が変われば大変不自由な世界かも知れません。この作品では、椅子の視点から私の日常の世界を見てみました。

5

「見て見ぬふり」

吉田 美幸



燃えるゴミの中にペットボトルが入っていても、見て見ぬフリをしてしまう人が多いかもしれません。人が転んでも手をかさない所を見ることがあります。そして、そういう私も見て見ぬフリをしているのだと、最後の少女の所で目にバツをつけました。

6

「街」

宇都宮メディア・アーツ専門学校 高橋 嵩人



度を過ぎた伐採や、環境を考えない街づくりをすると、いつか自分たちに返ってくるということを絵にしました。自然と、人間の生活のバランスを考えた街づくりが大切だということを訴えました。

7

「With the war for whom?」

駿河台大学 近藤 沙伎



私たちは、「戦争を無くそう」ということを呼びかけるものを作りました。一つの命が消えるということを血が流れることで表現し、世界地図が命の数に比例して赤くなるようにしました。この作品を見て、一人でも多くの人の心を動かし、いつか戦争のないときが来ることを祈っています。

8

「過剰包装」

中央工科デザイン専門学校 映像プロジェクト 2班



日本は外国に比べると、包装が過剰な商品が多いので、紙を無駄にするなということを伝えるためにこのビデオを作りました。

9

「STOP! 崩壊する世界」

名古屋大学教育学部附属高校 映像・演劇サークル



自分の些細な行動が、少しずつ世界を蝕んでいます。崩れてからでは遅いのです。それが少しでも伝われば幸いです。

10

「次へつなごう」

青山学院大学 岩井ゼミ



人は良い扱いを受ければ、良い行いを返し、悪い扱いを受ければ、悪い行いを返すという一面があると思います。地球上で"やさしい"の連鎖が増えればと思い製作しました。

入賞作品 No.11~20

11

「WHO's saving people?」

静岡県立大学 飯野ゼミ Aグループ



テーマは環境保護です。環境の保護は、将来の自分たちの身の安全につながるということを表現しました。

12

「The soul of language」

東海大学 山室 美沙希 / 斎藤 昂弥



言葉という言葉があり、言葉には魂がやどると言われています。だから人を傷つけるような言葉ではなく、すてきな、美しい言葉を使ってほしいと思いました。

13

「May I help you?」

大田垣 梨花

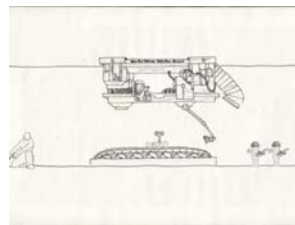


地球に優しく、というテーマで、地球が持つ荷物を地球がかかえる問題として、それを女の子が持つことで地球に住む人々が地球のmondaiをシェアし、一緒に考え、解決してゆけるといい、という意図で制作しました。

14

「武器工場」

文教大学 神田 浩平



少年が戦場で殺し合いをさせられているという、残酷な現実を題材として取り扱いました。文章を用いない抽象化した表現によって、直接的な残酷表現はしないようにと心がけました。

15

「Piece」

中央大学 FLPジャーナリズムプログラム 松野ゼミ



みんなの地球を想った行動の積み重ねが良い地球を作っていきます。1つ1つの行動をパズルのピースで表現し、小さな行動の積み重ねの大切さを訴えています。

16

「幸福の花」

駿河台大学 西田 巧



人間の生活が他の動物から見たらとても贅沢な生活です。だからと言って止めることはできません。ですが、その贅沢のために何を犠牲にしているのか気付いてほしいです。そして、その犠牲で何を得ているのかを見直してほしいと思い、この作品を作りました。

17

「届けよう世界の子もたちへ」

静岡県立大学 飯野ゼミ チームB



国境を越えた募金の呼びかけや、文化交流といった事柄を紙飛行機という抽象的なイメージにこめました。

18

「WORD」

東海大学 丸山 沙織



全世界共通の言葉による問題を取り上げました。言葉は時に刃物にもなり、人を癒すものにもなります。使い方次第でどんな形にも化ける言葉についても一度考えてほしいという思いを込めて作りました。

19

「Happy share」

東海大学付属翔洋高校 情報処理研究部 3 班



世の中には裕福な人もいれば貧しい人もいます。今回の作品はそこに注目し、裕福な人と貧しい人が分かち合うことで幸せになるのではないかと思いますこの作品を作りました。

20

「BIRTHDAY RIGHT」

茨城大学 arai gumi



世界では 20 人にひとりが 5 歳の誕生日を迎えることなく亡くなっています。そのうちの半分はアフリカの子供たちです。私たちは、この事実を知ってもらいたいという思いで、この映像を制作しました。

入賞作品 No.21~30

21

「リサイクル王子の分別」

長尾 隆樹



分別することは、それほど難しいことではないというのを、ギャグっぽく伝えようと思いました。

22

「cigaret」

文教大学 安田 千夏

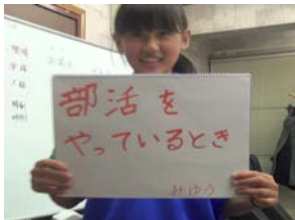


妊婦の喫煙は、本人だけでなく生まれる前の子供にも悪い影響を与えます。喫煙に限らず、子供からの悲痛なメッセージを、親はしっかり聞き入れてほしいという思いを込めて作りました。

23

「あなたの笑顔の素はなんですか」

駿河台大学 松原 拓



「笑顔」の映像を見てより多くの人が「笑顔」になってほしいと思い、作品を作りました。また、今回映っていただいた方には、「最高の笑顔」を意識してもらい、シーンが変わる時にスケッチブックでリレーをして、人と人のつながりを表現することにこだわりました。

24

「No School violence」

東海大学 森 観紗 / 山口 皓平



少しでもいじめを減らそうと思ったので、いじめで傷つく子ども・人を表現しました。いじめがどれほどひどいものなのか、いじめられた子どもや人の気持ちになって考えてほしいです。

25

「私たちは・・・」

獨協大学 沓掛 麻里 / 千葉 芽依 / 山崎 信彦



私たちはまだ地球市民になっていないと思います。私たちは、世界で起きている様々なことをもっと見る、もっと聞く、もっと言う、必要があります。このことを同世代の若者に気づいてもらいたくて、このビデオを製作しました。

26

「Acid Rain」

宇都宮メディア・アーツ専門学校 福田 勝太



酸性雨はどのような被害を及ぼしているか、どのように発生しているかを簡単に説明できないかと思い製作しました。

27

「inside or outside」

都立国際高等学校 映像B 第2班



私たちはつい、人を見た目で判断してしまいます。しかし、見た目が違うからといって、中身を見ずに人を判断してはいけません。そのことを青リンゴと赤リンゴで表現しました。

28

「NEGLECT」

薬師寺 大翼



昨年に続き今回も黒板アニメを使って表現しました。今回は、近年増加しているネグレクトをテーマにしました。この動画から、子どもたちの心が傷ついていくことを感じ取ってほしいと思います。

29

「line」

松村 穂の花



lineという言葉には、線という意味だけでなく、地理・地図上の境界線、顔のしわ、善悪などの境目という意味があります。このような様々なlineを越えていける世界になるように願いを込め、制作しました。

30

「Stop!!!...breath...?!!」

山陽女子高等学校 三年M組



二酸化炭素を減らして地球温暖化を防ぐには、息をしなればい。でも、そんなのは、「息苦しい」世の中です。小さなことの積み重ねで二酸化炭素は減らせる、ということを表現した作品です。

ベトナムでの One Minute Video の取り組み ～障がいのある若者たちが伝える「できること」～

街の喧騒を背に、レストランの横の壁に一人の若者が大きなポスターを貼っています。彼が唯一動かすことのできる右手でポスターに糊を塗っている間、地元の少年たちが建物の屋上から彼に水をかけるいたずらをします。

彼は黙々と作業を続けます。彼が一生懸命に貼るポスターには、このように書かれています。「地球を守ろう — ゴミを散らかすのはやめて、環境をきれいに保とう」。ポスターを貼り終わると、彼は次の目的地であるオープンマーケットに向かいます。

若者の名前はコン・タン・ドゥクさん。19 歳のドゥクさんは、環境への注意を喚起するメッセージを訴える One Minute 映像の監督兼俳優です。

彼は、2013 年 4 月 23 日から 27 日までの 5 日間、ベトナムのホーチミン市で開催された One Minute Video ワークショップの参加者の一人です。

ドゥクさんを含む 16 名の参加者はみな、障がいのある若者たちです。若者たちは、ワークショップで映像製作の基礎を学び、実際に One Minute Video の制作に取り組みました。

「私たちは何らかの支えなしで、普通の生活を送ることはできません。障がいのある人の多くは、障がいのない人ができることが、自分にはできないと思い込んでいます。」そう話すのは、ワークショップの参加者の一人であるゲン・クアン・ミンさんです。

ミンさんは、作製した映像の中で障がいのない人にとっては簡単なことであっても、彼にとっては革新的なことである「自転車の運転」にチャレンジしています。彼は映像の中で、今回のワークショップのテーマでもある「できること」について伝えました。

多くの参加者にとって、ワークショップは厳しい現実の世界から、自分自身の能力などが高く評価される場所に抜け出す束の間の時間でした。

「私はワークショップがそれほど面白いものだとは思っていませんでした。でも、私はそこで自分と同じような友達に多く出会って、自信をもって生きてゆく強さをもらいました。」17 歳のレ・キム・トランさんは語ります。

ワークショップの最後に、それぞれの参加者が作った 16 作品が上映され、参加者たちは友人や先生、家族からのあたたかい拍手を受けました。

※コン・タン・ドゥクさんの One Minute Video 作品が、下記のページでご覧いただけます。

<http://www.youtube.com/watch?v=PffTvjdZ0Lw#at=20>



© UNICEF Viet Nam/ 2013/Gyalthang

上映会で One Minute 映像を楽しむ

ワークショップの参加者たち。

日本ユニセフ協会 ホームページ

<http://www.unicef.or.jp>

ユニセフの活動や歴史や世界の子どもたちについて、分かりやすく説明した
「子どもと先生の広場」もご覧下さい！

<http://www.unicef.or.jp/kodomo/>

公益財団法人 日本ユニセフ協会（ユニセフ日本委員会）

学校事業部

〒108-8607 東京都港区高輪 4-6-12 ユニセフハウス

電話：03-5789-2014 FAX：03-5789-2034